

た よ り



〒518-0814 伊賀市上友生785番地

TEL&FAX:0595(21)8839

URL:<http://www.iga.ed.jp/igaken>

E-mail:iga-ken@iga.ed.jp

学校教育研究事業推進校の実践から学ぶ

2023-24（令和5-6）年度の伊賀市教育委員会指定学校教育研究事業推進校（2校）の研究発表会が行われ、多くの方々がそれぞれの学校に参加して、その実践に学びました。いただいた資料から抜粋して、一部を紹介します。

◎壬生野小学校(10/28)

研究主題「一人ひとりのちがいを認め合い、思いを出し合える学級づくり」
～問いを引き出し、学び続ける子どもをめざして～

算数科における研究の視点

- ① 導入や課題提示の際に、子どもが「予想との・感覚との・友だちとの・既習とのズレ」を認識できるような手だてを工夫することで、子ども自らが「問い」をもち、課題を自分に引き寄せて考えることができる。
- ② 自分の考えを文や図で表現する、ペアで伝え合うといったアウトプットにより、自分の思考が整理され、まだはっきりしていない部分を明確にすることができる。
- ③ 子どもから生まれてきた考えを、そのまま子どもに投げ返したり、思考をゆさぶる発問によって、「だったら〇〇の場合もできるのかな」「もし、〇〇だったら・・・」などの新たな問いが引き出され、対象を広げたり、一般化したりして、深い学びにつなげることができる。

◎柘植小学校(11/1)

研究主題「誰一人取り残さない教育を推進し、確かな学力を身につけた子どもを育成する」

(1)人権学習の取組

各学年の人権学習の取組を「多様な人生モデルとの出会い」という観点で再構築し、自分自身のくらしを見つめ生活を高めていくことや、将来の自分を思い描くための大事なきっかけや節目としていきたいと考えた。

(2)学力保障の取組

子どもたちの基礎学力の定着を目指す「学力向上の取組」と子どもたちの学習理解や学習意欲が高まることをねらいとした「授業力向上の取組」の2つを、学力保障の取組として進めた。授業力向上の取組では、何よりも大切にしたいことは、「誰一人取り残さない」という教師自身の授業に臨む立ち位置だと考え、授業づくりに取り組んできた。

なお、研究発表会で配布された研究紀要は、当センターの書籍コーナーでも保管しています。ぜひご覧下さい。